



## 口の健康から将来の健康を

### 武蔵ヶ丘北小学校「フッ化物洗口」

武蔵ヶ丘北小学校は1月22日からフッ化物洗口を開始しました。フッ化物洗口とは、丈夫な歯質を作るための虫歯予防法の一つで、フッ化ナトリウム水溶液での1分間のプクプクがいです。町内では保育園・幼稚園で昨年度からすでに開始しています。今回はその取り組みをさらに小学校まで継続するため、全学年で希望する家庭の児童を対象に、週1回実施しています。フッ化物洗口を通して子どもたちが歯を大切に、将来の健康につなげることを願っています。



▲プクプクがいをする武蔵ヶ丘北小学校の児童

## 新たなステージへ

### 菊陽町企業・事業者交流促進研修会

菊陽町企業・事業者交流促進研修会が1月19日、ブランヴェールアベニューで開催されました。ことしは「新たなステージへのステップアップと組織強化」とのテーマで、重光産業株式会社の重光悦枝代表取締役副社長が講演しました。「人は出会うべき時に会おうべき人と出会う」「行動を起こさなければ良い偶然は起こらない」という人の出会い、自ら行動することの大切さを自らの経験に基づいて講演。参加した約100人の企業関係者は真剣に聞き入っていました。



▲質問に答える重光悦枝代表取締役副社長

## 囲碁って楽しい!

### 白鈴保育園「子ども囲碁教室」

子ども囲碁教室が1月26日、白鈴保育園で開催されました。講師は阿蘇市の自宅で子ども囲碁教室を開く日本棋院普及指導員の藤崎幸次郎さん。関節リウマチで手足が不自由ですが、昨年からは保育園や小学校に出向きボランティアで囲碁を教えています。「上手やなあ」「いいところ打ったなあ」と関西なまりの明るい声で優しく声を掛けると、子どもたちはうれしそうにほほ笑んでいました。藤岡はるのさんは「楽しかった。家でお姉ちゃんとまた遊びたい」と話していました。



▲藤崎さん手作りの囲碁で石の取り方を学ぶ子どもたち

## 地域の農業を支える

### 第55回熊本県農業コンクール大会

第55回熊本県農業コンクール大会表彰式が1月29日、熊本テルサで開催され、町内の農作業を受託している津田地区機械利用組合(富永連組合長)が地域貢献賞を受賞しました。同組合は平成4年に農協青壮年部機械利用組合として設立。平成7年に津田地区機械利用組合になり、米・麦・大豆の防除や収穫作業を受託し、現在も地域農業を支える組織として活動しています。富永さんは「今後は技術を伝えていくことで地域の農業を支えていきたい」と話しました。



▲感謝状を手に喜びの表情を見せる富永連組合長

## たくましく心豊かに育って

### 武蔵ヶ丘中学校「くまもとキッズウィーク」

くまモンが「くまもとキッズウィーク」の一環で1月27日、武蔵ヶ丘中学校にやってきました。

熊本の約3割の子ども(0歳~小3)が午後10時以降に寝ています。そこで県は2月1日~15日を「くまもとキッズウィーク」と定め、基本的生活習慣の定着や教育・保育の充実に関わる取り組みを推進しています。これは熊本の子供たちがたくましく、心豊かに育つことを願って作られました。

この日は、武蔵ヶ丘中学校の生徒220人と武蔵ヶ丘第二保育園の年長児16人が参加。基本的生活習慣に関するクイズに挑戦し、規則正しい生活について楽しく学びました。最後はみんなでくまモン体操を元気に踊りました。

武蔵ヶ丘中1年生の下西康生さんは「世界中で活躍しているくまモン、武蔵ヶ丘中学校に来てくれてありがとうございます。勉強や部活に追われ、規則正しい生活ができていなかったと反省しているところです。くまモンを見習って早寝早起きを今日から頑張ります」と話しました。



▲くまモン体操を踊りました



▲くまモンにお礼の言葉を伝える下西康生さん

## あなたの介護は、誰がする?

### よかつれフェスタ2015

「よかつれフェスタ2015」~ひとひとで築いきいき菊陽~が1月31日、図書館ホールで開催され、町内外から約300人が訪れました。

オープニングは、働く婦人の家講座生によるコーラスとリズムダンス、菊陽町少林寺拳法協会による気迫あふれる演武で来場者を迎えました。

菊陽町男女共同参画社会推進懇話会と菊陽町男女共同参画さんさんの会の有志による寸劇では、「お母さん」に任せられがちな家事・育児・介護の大変さ、家族が協力することの大事さを演技の中で表現。役者たちのコミカルな演技に会場からは思わず笑いが起こっていました。

九州看護福祉大学教授の生野繁子さんは「ひとりで悩まない介護」~介護も男女共同参画で~をテーマに講演。少子高齢社会では、介護を女性だけの役割と考えてはいけないと話しました。特に、家族や地域、社会の協力が不可欠で、家族で抱え込まず、サービスや制度を利用して、介護する側の負担を減らすこと的重要性をデータで示しながら講演していました。



1 生野繁子さんによる講演「ひとりで悩まない介護」  
2 懇話会・さんさんの会有志による寸劇



## 算数の楽しさを体感!

### 町教育委員会指定の「学力充実」研究発表会

町教育委員会指定の「学力充実」研究発表会が2月10日、菊陽南小学校で行われました。南小では自分の意見をまとめ、考えを共有する道具としてホワイトボードを使用。その他、ペアで問題を出し合ったり授業の初めに興味・関心を高め、解決への意欲を保たせたりするなどさまざまな工夫が行われています。3学級で行われた公開授業には町内の先生を始め約200人が参加。初めは緊張気味の児童もしっかり考え、自分の意見を分かりやすく発表していました。



▲ペアになって算数の問題を出し合う児童

## 安心して農作業を

### (株)きくようアグリが誕生

町全域を活動エリアとする農業生産法人(株)きくようアグリが誕生し、2月6日に開所式が開かれました。代表取締役役に就任したJA菊池組合長の三角修さんは「農家が安心して農地や農作業を任せられることができる会社を目指し、地域農業の維持・発展に貢献したい」と抱負を話しました。この会社は米・麦・大豆の農作業を受託し、担い手の営農組織に作業を再び割り振ることで町内農業の発展を目指します。将来的には町特産物のにんじんの収穫作業の受託も行う予定です。



▲開所式であいさつをする三角修代表取締役

## 町の誇りを伝える

### 文化財ボランティアガイド「地域ボランティア賞」

熊本善意銀行が1月29日、菊陽町役場で菊陽町文化財ボランティアガイド(総数35人、矢野誠也代表)へ地域ボランティア賞を伝達しました。

菊陽町文化財ボランティアガイドは平成20年から鼻ぐり井手や町内史跡のガイドをしてきました。その他町内各小学生への講話や南小児童3、4年生の子どもガイドの養成を行っています。代表の矢野さんは「賞を励みに、今後も地元に着実に町の誇りを伝えていきたい」と話しました。



▲これからも頑張りたいと話す矢野誠也さん(中央)

## 住民待望の公民館

### 町内4つの地区に公民館が完成

杉並台コミュニティセンター(公民館)の落成式が1月31日、同センターで行われました。同センターの建設完了で、平成26年度に予定されていた公民館建設は全て完了し、中代、中尾、南花立、杉並台の4つの地区に新たな公民館が完成しました。南花立の梅北兼弘区長は「親睦や協力、防犯・防災活動の拠点として運営し、健全で明るく住みよい地域社会づくりに努めたい」と話しました。今後、各地区で地域づくりが一層進展することが期待されます。



▲南花立区公民館内で祝いの言葉を話す梅北兼弘区長

## 設立から50年

### 菊陽町老人クラブ連合会大会設立50年記念大会

菊陽町老人クラブ連合会大会設立50年記念大会が2月3日、菊陽町老人福祉センターで開催されました。同連合会は60歳以上の町民が会員で、健康づくり事業や地域奉仕活動などを行っています。同大会は各地区のクラブ代表者が普段の活動などを発表。会員以外の参加もでき、活動内容を知ることができます。

今回は老連設立50年を記念する大会で、菊陽町文化協会によるオープニングセレモニーから始まりました。その後、後藤町長から感謝状の贈呈と菊陽町老人クラブ表彰が行われました。受賞者を代表して相馬國人さんは「今後ますます努力を重ねてクラブの活性化に尽くしていきます」と話しました。

受賞者は次のとおりです(敬称略)。

【菊陽町感謝状】吉本正昭(辛川)

【老連表彰】相馬國人(千歳会)、小四朗丸久(若竹会)、加藤謙蔵(緑会)、上村勝秋(菊寿会)、笠徹男・久保田ツギ・佐藤ヤツ子(南方ハイパワークラブ)、山生純一・林貞子(陽寿会)、下田久子・小西正子(熟年会)、中村美智子(老連)、坂本洋子(老連)、松永秀喜(鶴齢会)



▲オープニングセレモニーの大正琴



▲受賞者を代表して謝辞を述べる相馬國人さん(左)

## 仲間がいるから頑張れる

### 日本代表監督が武蔵ヶ丘中サッカー部に指導

日本ブラインドサッカー協会ロービジョンフットサル部門の日本代表監督・齋藤友規さんが2月1日、武蔵ヶ丘中学校サッカー部に講演会と実技指導を行いました。齋藤さんは熊本国府高等学校出身。ロービジョンフットサルとは視覚障がい者の選手が行うフットサル。選手は残された視力・視野を生かしてプレイします。

齋藤さんは自身の経験を踏まえ、サッカーをとおして学んだものを生徒に講演。「つらいときも仲間がいるから頑張れた。サッカーをとおして生き方を学んだ」と話すと、生徒は真剣な表情で齋藤さんの話に耳を傾けていました。実技では弱視体験ゴーグルを着けてボールの音を頼りに歩いたりボールを蹴ったりしました。その後試合で生徒たちは今以上に感覚を研ぎ澄まして真剣勝負。生徒たちの歓声が体育館に響きました。

武蔵ヶ丘中1年の和田崇志さんは「いつも見えていたものが見えなくて怖かった。できないことはチームみんなで協力した。サッカーに対する姿勢や自分と仲間を信じることの大切さを学んだ」と話しました。



▲齋藤友規さん(前列中央)と武蔵ヶ丘中サッカー部の皆さん



▲ボールの音を頼りに歩く生徒 ▲弱視体験ゴーグルを着けて試合